

授業の具体的展開例

素朴概念に基づく話し合いから

T：自分がかいた絵を他の人と比べて気付いたことを話し合しましょう。

—グループで—

C：チョウは羽があるけど、2枚だったかな4枚だったかな・・・。確かめないとよく覚えていないけど4枚にしました。

C：チョウの羽は4枚だったと思うよ。でも、後でみんなで確かめてみよう。

C：足は4本だったかな。（絵を見せながら）こんな風に付いていると思う。

C：足は6本で、「おなか」から出ていると思うよ。

C：「おなか」というか、真ん中の部分から出ていると思うよ。

C：チョウの体っていくつに分かれていたかな。頭と体の2つに分かれていると思うなあ。

—全体で—

T：どんなところを観察したらいいと思いますか。

C：羽の枚数を確かめたいと思います。

T：なぜそう思ったの？

C：私のグループでは2枚か4枚かで意見が分かれていたので、そう思いました。

C：ぼくのグループでは、足がどこに付いているかを中心に観察したいと思います。足がどこに付いているかで、意見が分かれたからです。また、足の本数についても意見がバラバラでした。

T：それではみんなでモンシロチョウを見て確かめてみましょう。

—観察をする—

C：あっ、やっぱり羽は4枚だぞ。

T：どこに付いているかな。

C：背中に付いているね。

C：チョウの体は3つの部分に分かれているよ。私は、頭と体の2つにしか分けていなかったなあ。

C：真ん中の部分から足が出ているね。1, 2, 3, ... 6本だね。モンシロチョウの足は6本だ。

C：ぼくの絵は、足がいろいろなところから出っていたけど、実際は真ん中の部分から出たんだね。

「活用」の力を育てる評価の工夫

活用する力を育てる上でのポイント

◆ 生活経験や現時点での自然観に基づき、自分の考え方を表現する力を育てるために、まず、根拠を明らかにして意見を書き記したり述べたりできるようにする。

◆ 児童の中にはその時点で、ある程度の概念が知識として存在する。それを図や言葉で出させることで、学習の中で自分の目で確かめることにより、納得しながら考えや知識を修正することができる。素朴概念からの変容を見取ることが大切である。

◆ 素朴概念をグループで交流することで、学習をどのように進めるかという方向性をグループで持つことができる。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時では特に、素朴概念から観察の視点を見だし、自らの考えを表現して話し合うことで、さらにグループで観察の方向性を検討する等して、個人、グループそれぞれの形態において主体的な学習スタイルをつかっていきたい。

そのための視点として、

① 素朴概念を絵や文で表す際に、自ら問題を発見しそれを追究しようとしているか。

・現時点の知識に基づく概念（素朴概念）はどんなものか気付かせる。

・図として表しにくかったところを観察させる。

② 素朴概念に基づいた話し合いの内容から問題を発見し、追究しようとしているか。

・曖昧な部分を特によく観察させる。

・どちらの意見が正しいか観察し確かめさせる。

児童のノート例

これまでモンシロチョウの育ちをみんなでかんさつしてきたのに、よく見ていなかったと思いました。

ぼくがはじめにかいたモンシロチョウの絵は、はねが2まいで、体を2つの部分に分けていました。また、足の本数は6本だったのですが、はらからかいていました。よくわからずにそうそうでかいたところもありました。とくに足のつき方についてはよくわからなかったので、そこを中心にかんさつをしました。

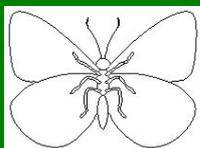
グループの中では、はねが2まいか4まいかで意見が分かれていたので、そこをたしかめようということになりました。

かんさつしてみると、足は6本で全部、「むね」から出ていました。はねは4枚で前のはねが大きいことがわかりました。他にもしょっかくは2本で、先に丸いものがついていることもわかりました。

今日のべんぎょうで、モンシロチョウの体は…（略）

板書例

モンシロチョウの体のつくりを調べよう



モンシロチョウの体は
・頭、むね、はらから
 できている。
・むねに6本の足がある。